

## ○チェックリスト利用の目的

- ・チェックリストの評価を事業所に提示することで、本人の就労能力及び、長所短所を理解していただき、障害者雇用を行う上での参考とする。
- ・市町が、就労継続支援B型、就労継続A型等の福祉サービスの支給決定を行う上で、本人の就労能力を評価し、把握する為の参考資料とする。
- ・就労支援事業所等において、支援対象者に対する支援のポイントを把握し、的確な計画を作成する為に利用する。
- ・就労支援事業所等に置いて、定期的に評価を実施することで、本人の就労に向けた状態を具体的に把握し、働くという目標に向けての進展状況等を把握する。
- ・関係機関への支援対象者の紹介、連携を行う上で、本人を把握するための参考資料の一つとする。

## ○利用に当たっての留意事項

- ①実習を通して評価を行う時には、可能な限り休日をはさみ、休日後の出勤と勤務態度も含め評価を行う。
- ②支援対象者の就労に向け、他の就労支援機関や就職先企業などへチェックリストの情報を提供する場合には、個人情報に注意し、本人の同意を得る。
- ③評価者の主観で評価結果が左右されないよう、短期的な評価時(支援学校高等部3年生での就労継続支援B型利用の為のアセスメントなど)には、必要に応じて、最低2名以上で評価を実施する。
- ④対象者の障害や状況に応じては、このチェックリストの評価のみで判断せず、医師の意見書等、本人の障害や状況を把握できるものを参考にして、評価を実施する。
- ⑤仕上がったチェックシートについては、相談支援機関へ提出し、サービス等利用計画案策定の資料とする。
- ⑥行政への提出は、相談支援専門員が、サービス等利用計画案を提出する際に、一緒に提出する。

※「各支援機関の連携による障害者就労支援マニュアル」も併せて、参考にしてください。

## チェックリスト記載要領

### (1) 留意事項

チェックリストの記載に当たっては、次の点に留意すること。

- ① 就労移行支援事業者等において、作業場面や休憩時間等の様子に基づいて記載する。
- ② ひととおり評価者が記載した後に対象者と十分な話し合いをして理解を得る、あるいは、対象者ととも話し合いながら記載する等、対象者の現状等についての認識を共有するために、対象者や、場合によっては、家族や支援者の参加を前提とする。
- ③ 該当する答えがない場合、あるいは、補足することがある場合には、対象者の状態を記述欄に記載する。

### (2) 必須チェック項目

- ① 各項目には、段階チェックがある。あてはまるもの1つに○をつける。  
4段階チェックにおける各段階の達成の目安は、次のとおりである。
  - 1・・・できる/手助けを必要としない（80～100%）
  - 2・・・ほぼできる/手助けがあればできる（60～70%程度）
  - 3・・・ときどきできる/手助けがあればできるときもあればできないときもある（40～50%程度）
  - 4・・・できない/手助けがあってもかなりむづかしい（30%以下）

## I 日常生活

### I-1 起床

毎日決まった時間に起きられるか。

- ・家族の支援でできる場合でも可。その場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記載する。

### I-2 生活リズム

規則正しい生活ができるか。

- ・家族の支援でできる場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記入する。
- ・夜更かしをする等、生活習慣上の特記事項については、自由記述欄に記載する。

### I-3 食事

規則正しく食事をとることができるか。

- ・家族の支援でできる場合でも可。その場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記載する
- ・偏食、食べすぎ、少食、間食が多い等の場合、その旨を自由記述欄に記載する。

### I-4 服薬管理(定期的服薬を要する人のみ回答)

薬の内容や量、時間、回数等、医師に決められたとおりに服薬しているか。

- ・家族の支援でできる場合でも可。その場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記載する
- ・どんなときに飲み忘れをするか、服薬しない頻度、一度に多量に飲んでしまう等については、自由記述欄に記載する。

### I-5 外来通院(定期的通院を要する人のみ回答)

医師に指示されたとおりにきちんと通院しているか。

- ・家族の支援でできる場合でも可。その場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記載する

### I-6 体調不良時の対処

体調不良時に対処できるか。

- ・家族の支援でできる場合でも可。その場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記載する

### I-7 金銭管理

就労移行支援事業者等から支払われた報酬の管理ができているか。

- ・小遣いの管理なら可能な場合、管理するほどの金銭を持たされていない場合等には、その旨を自由記述欄に記載する。

## I-8 自分の障害や症状の理解

自分の障害や症状を理解しているか。

- ・自分の障害や症状を理解しているが受容していない場合は、その旨を自由記述欄に記載する。その他、精神障害者の場合には症状理解等、性記することがあれば、自由記述欄に記載する。
- ・場合によっては、直接本人に聞くのではなく、支援者が、対象者の日常の言動から判断する。

## I-9 援助の要請

援助を求めることができるか。

- ・言葉で求めることができなくても、表情、ジェスチャー、アイコンタクト、声の調子等、言葉に代わるもので求めることができる場合にも可。その場合には、自由記述欄にその旨を記載する。

## I-10 社会のルール理解

反社会的行動や非社会的行動等があるか。

- ・直接本人に聞くのではなく、評価者が、対象者の日常の言動から判断する。

## I-11 身だしなみ

衛生的、TPOにあった服装が出来ているか。

- ・評価者が、社会的な視点から見て評価する。

## I-12 衛生面

- ・本人の意志ではなく、社会一般的な視点から見て評価する。

## I-13 移動手段

- ・本人の移動できる交通手段を全てチェックする。

## II 働く場での対人関係

### II-1 あいさつ

あいさつができるか。

- ・その場に応じたあいさつができること、あいさつする時の声の大きさ、視線（相手の顔を見て）や表情（笑顔で）などが適切であること等から判断する。問題があれば、自由記述欄に記載する。

### II-2 会話

その場に応じた会話ができるか。

- ・自らは話しかけない等の特記事項があれば、自由記述欄に記載する。

### II-3 言葉遣い

相手や場に応じた言葉遣いができるか。

### II-4 非言語的コミュニケーション

非言語的コミュニケーションができるか。

- ・非言語的コミュニケーションとは、本人又は相手の表情、ジェスチャー、アイコンタクト、声の調子等の言語によらない方法によって、自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の気持ちや考えを理解することを指す。

### II-5 協調性

協調性があるか。

### II-6 感情のコントロール

感情が安定しているか。

- ・感情を出せない、感情が分かにくい等の特記事項があれば、自由記述欄に記載する。

### II-7 言思表示

自分の意思（仕事上の質問や意見、体調悪化、トイレ休憩をとりたい等）を相手に伝えられる

- ・言語による方法ではできなくても、なんらかの方法でできる場合には、自由記述欄に記載する

### II-8 共同作業

共同で物を運ぶ、ペアで作業を行う、流れ作業等の、共同作業ができるか。

- ・共同で物を運ぶのはできないが流れ作業はできる、好きな人とはできるが嫌いな人とはできない等の特記事項があれば、自由記述欄に記載する。

### Ⅲ 働く場での行動・態度

#### Ⅲ-1 一般就労への意欲

- ・一般就労への意欲が強いのか。
- ・対象者の日常の言動などから判断する。

#### Ⅲ-2 作業意欲

- 作業意欲が強いのか。
- ・作業場面等における対象者の言動などから判断する。

#### Ⅲ-3 就労能力の自覚

自分の能力からみて、どのような作業内容、勤務時間、勤務日数等が合っているかがわかって

#### Ⅲ-4 働く場のルールを理解

- 作業場面等において働く場のルールを理解しているか。

#### Ⅲ-5 仕事の報告

- 作業場面等において仕事の報告ができるか。
- ・慣れた環境とはじめての環境で異なる場合、報告するときのタイミング、声の大きさ、内容等について問題がある場合には、自由記述欄に記載する。

#### Ⅲ-6 欠勤等の連絡

- 欠勤、遅刻などを連絡できるか。
- ・家族の支援でできる場合でも可。その場合には、自由記述欄に家族の支援が必要と記載する
- ・聴覚障害者の場合等、電話連絡以外の方法で連絡する場合には、自由記述欄に記載する。

#### Ⅲ-7 出勤状況

- 欠勤・遅刻・早退の頻度についてである。

#### Ⅲ-8 作業に取り組む態度

- 作業にどのような態度で取り組んでいるか。
- ・作業場面等における対象者の言動などから判断する。

#### Ⅲ-9 持続力

- ・1日何時間の勤務ができているか。
- ・作業場面等における対象者の言動などから判断する。
- ・1日6時間勤務はできるが1日おきにしかできない等、提言事項があれば自由記述欄に記載する。

#### Ⅲ-10 作業速度

- 期待されている作業速度と比べてどの程度か。
- ・作業場面等において、各対象者に対して期待されている作業速度と比べてどの程度かを判断

#### Ⅲ-11 作業能率の向上

- 作業能率の向上がみられるか。
- ・最初のチェックから一定期間経過後に、チェックする項目である。

#### Ⅲ-12 指示内容の理解

- 指示内容を理解できるか。
- ・言葉で理解できなくても、その他の方法で可能な場合には、自由記述欄に記載する。
- ・理解できても実行できない、実行しない等、問題がある場合には、自由記述欄に記載する。

#### Ⅲ-13 作業の正確性

- 作業をミスなくできるか。
- ・ミスとは、不良品の発生、手順を間違える、作業中に注意を受ける等、作業上のミスを指す
- ・ミスをした時の反応（ミスを改善できる、ミスに気づくが報告できない、ごまかす等）については、自由記述欄に記載する。

#### Ⅲ-14 危険への対処

- 危険な場所に立ち入らない、動いている機械に手を入れない等、危険に対処できるか。

#### Ⅲ-15 作業環境の変化への対応

- 作業手順の変化、作業の種類の変更、上司の交代等の作業環境の変化に対応できるか。

#### Ⅲ-16 機器や道具の利用

- 道具の使用について指示されたことを、理解し道具が利用できる。

#### Ⅲ-17 責任感

- 仕事を遂行する上で、責任を持ってやろうとしているかどうかを確認する。

#### Ⅲ-18 作業と休憩の区別

- 作業時間と休憩時間の区別をし、作業に取り組んでいるか。

### 3) 参考チェック項目

- ①各項目とも、あてはまるものすべてに○をつける。
- ②総合所見については、対象者の現状、課題等、記入する。B型利用の為に実施する場合は、なぜB型利用が必要なのかを記入する。